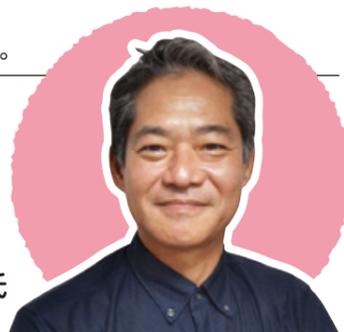


無料定額診療事業の紹介

社会福祉法人沖縄にじの会 ゆがふ苑施設長 玉城好史 氏



高齢者介護事業を運営するにあたり医療との連携は非常に重要となっています。当法人は沖縄医療生活協同組合が運営する医療機関と協力体制をとりながら医療・介護の側面での高齢者の支援を行っています。

今回は、沖縄医療生活協同組合で実施している「無料低額診療事業」をご紹介します。沖縄医療生活協同組合と社会福祉法人沖縄にじの会は「無差別・平等の医療と介護の実現」を理念のひとつとして掲げており、お金のあるなしに医療が中断されないように社会福祉法に定められている「無料低額診療事業」を実施しています。事業の中身は文字通り医療が必要な時に発生する自己負担分に関して、支払いが困難な場合に一定の要件を満たせば無料あるいは低額にするものとなっています。「いのちを守る」ことが最大の目的の制度ですが、「疾患を背景から観る」ためには、なぜ医療にかかれな状況となっているのかについて考えていく必要があります。生活が自立するためにはどのような援助が必要なのかについて治療と並行しながら多職種による支援が行われています。

事例で紹介します。40代女性。親と同居で親の年金で生活している状況でした。病気で仕事を辞めたことで無職となったが、回復し就労可能であるため就職活動を再開。しかし、虫歯がひどく歯が無い状況で、発音も悪く面接で繰り返しの不採用となっていました。就労できな

いため、収入が得られず歯の治療も困難となっていました。本人より「前歯だけでもいいからほしい。そしたら、仕事が見つかる。支払いが分割払いで…」との要望がありました。そこで「無料低額診療事業」を利用し、歯科治療を開始したことで就職することができ、生活の安定に向かうことができました。話すこと、食べることの改善はもとより、それ以外にも患者が取り戻したものは忘れていた笑顔と自信でした。経済的な困難は人としての生活のあらゆるものに影響するものであり、病気の背景には様々な要因が隠れています。

制度を運営していく上で課題が浮上りました。「薬代」です。医療機関での治療は支援することができても薬代を支払うことが困難で薬剤による治療が中断してしまいます。そこで本制度を活用している患者に対して薬代助成の設置を那覇市へ陳情し、助成制度が認められました。現在は豊見城市にも助成制度設置の陳情を行っています。

「まず、いのちを守る」本制度はあくまでも生活状況が改善されるまでの一時的な措置です。最終的には公的制度の活用をめざし、その間のつなぎの役割を果たすものです。制度を活用しながら、生活の改善、社会的資源、公的制度の申請、手続き等について利用者本人も努力していく必要があります。



那覇市地域密着型高齢者複合施設 わらていーだ



社会福祉法人 沖縄にじの会 特別養護老人ホーム 知花の里



社会福祉法人 沖縄にじの会 特別養護老人ホーム ゆがふ苑

なは地域貢献便り12月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

令和4年度第1回、2回那覇市社会福祉法人等施設連絡会報告

去る10月17日(月)ともかぜ振興会館において、午前に小禄、真和志地区、午後は、本庁、首里地区と2回に分けて連絡会議を開催しました。本事業もモデル事業3年目の最終年度で、報告事項2点、協議事項2点について、承認を頂きました。

県社協からは、地域福祉部主任の根路銘夕貴氏から、モデル社協の近況報告や本事業について講話を頂き、改めて本事業の意義を再確認する場となりました。

特に、協議事項1は、成果物として、地域貢献手引書の策定に向けて、検討部会を選定しました。協議事項2は、チャリティボウリング大会を連絡会の構成法人施設を実行委員会として運営し、社会福祉法人そてつの会 理事長の新元時雄様が実行委員長に選任され、生活困窮者の応援事業として取り組むことが承認されました。

また、チャリティボウリング大会の趣意書、依頼文、チケット注文票については、11月1日・12月1日発行の地域貢献便りと一緒に添付させていただきました。なお、取りまとめて注文いただければ、事務局からチケットの引き換えと集金にお伺いさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。



令和4年度第1回 小禄・真和志地区連絡会の集会

災害時における社会福祉施設における福祉避難所の在り方についてアンケート調査

那覇市内の社会福祉施設に対して、災害時要援護者避難支援計画に関するアンケート内容を、地域貢献便り12月号に添付していますので、12月23日までに記入の上、那覇市社協への返送をお願い致します。

地域福祉懇談会でつながりました

真和志第二民児協定例会にて、防災講話を企画



真和志第二民児協(会長 村上直恵)では、去る8月16日の定例会において、防災講話を開催しました。昨年からは包括支援センターが12圏域から2小学校区の18圏域に変更しました。今年度18民児協区になって初めての那覇市地域福祉懇談会で、ちゅいしいじい事業地域貢献活動の推進を目的とする(市内400有余の社会福祉施設)市内の社会福祉施設25法人の連絡会の地域貢献活動について情報を共有しました。加入施設、日本赤十字社沖縄県支部の事業推進課長の池原栄作氏が講師となつての地域福祉懇談会を通して繋がりの契機となりました。



福祉のお仕事入門講座

(沖縄県福祉人材センターとの連携)

マイン高等学院沖縄キャンパス (令和4年9月16日)



マイン高等学院の生徒に対し、高齢福祉分野について、安謝福祉複合施設の在宅支援課長の仲田昌雄氏を招聘し、高齢福祉の取り組みについて、講話を実施しました。仲田氏はコミュニケーションの伝わることの大切さ、伝えることの難しさについて伝言ゲームなどをして、生徒に説明をし、安謝福祉複合施設の建物内に児童館の子どもたちとの交流に有効性を感じていた。また、施設職員が、高齢者のやりたいことを受け止め、積極的に行動することにも感銘を受けていました。

生徒の感想から抜粋

- コミュニケーションは話すだけでなく、相手に伝えられているかどうかという言葉聞いて、自分にはできていないことなので、そういうことを言ってくれる人は貴重だなと思った。
- 話を聞いていると、お年寄りの方を心から思いやっているのが伝わってきました。

みらい支援学校 (令和4年9月30日)

みらい支援学校では、3学年5名、2年生3名の8名が、職業の授業・福祉班として、卒業後の就労先として福祉関連事業所を想定しています。コロナ禍で高齢者施設での実践もできないことから、まずは実際に働いている方の話を伺って就労のイメージをさせたいと考えています。

講師は、社会福祉法人沖縄にじの会 地域密着型複合施設わらわーだ 城間周作施設課長を招聘し、「施設の役割」「法人の理念や業務内容」「職場の雰囲気や様子」「高齢福祉の魅力ややりがいについて」お話をされて、生徒たちは最後まで、熱心に聞き入っていました。



久田病院看護学校へ進学するための無料塾の合格状況 並びに新規受講生募集について

医療法人正清会では、令和2年6月に経済的な理由で塾へ通えない方のために看護学校へ進学するための無料塾を立ち上げました。医療機関、クリニック等の職員様にも受講生がおられ、一昨年、昨年とたくさんの方を合格に導いています。久田護雄事務長は、引き続き、受講希望の方を呼びかけておられます。ご希望の方は下記までご連絡ください。

久田病院無料塾合格状況 合格状況12名 (令和4年度2月現在)

<推薦>

沖縄看護専門学校 …… 3名
浦添看護専門学校 …… 1名
那覇看護専門学校 …… 3名
四国大学 看護学科 …… 1名
宇部フロンティア大学 …… 1名

<一般>

看護専門学校 …… ダブル合格 1名
浦添看護専門学校
沖縄看護専門学校 …… 2名

南風原町字大名 275
☎098-889-3206
医療法人 正清会
久田病院 院長 當山貞雄

生活困窮世帯への食糧支援活動に朗報

日本赤十字社沖縄県支部

指定管理施設安謝老人憩の家・児童館内の一部スペースを 安謝、曙地区食料備蓄庫(フードバンク)として無償提供



この度、近隣で子ども食堂を運営する主任児童委員の玉寄さんと、同じく雅福祉会の兼城理事長から、悩みを抱える子育て世代の親への支援活動の一つとして、食糧支援を通して親の相談を受けられるきっかけと成ればとの声から、安謝福祉複合施設安謝老人憩の家の大村館長より「施設内の空きスペースを活用し、近隣の食料支援活動として提供します。」との朗報が社協に寄せられた。

安謝老人憩の家の大村館長は、「社会福祉法人等の社会福祉施設に地域貢献活動が求められている中で、こういう施設を活用してのフードバンクへの場所の無償提供は初めてです。」と話された。

「これをきっかけに様々な施設があるので、施設の強みを活かした地域貢献活動が広がっていければ」と抱負を語った。社協地域福祉課の真栄城課長は、「困窮世帯に対して、遠方から取りに来られる方々へ身近な福祉拠点を求めていたところで、集めた物品備蓄庫の空調や冷蔵庫など、困窮世帯が気軽に貰える食糧や、コーディネート課題を検討していきたい」と想いを話しました。



(左から) 安謝老人憩の家・児童館 大村朝建館長
日赤安謝福祉複合施設 在宅支援課長 仲田昌雄氏
主任児童委員 玉寄文代氏、雅福祉会理事長 兼城照美氏



令和4年度 連絡会構成施設プロジェクト食料支援

今年も、社会福祉施設から多くの食料の寄贈を受けています。皆様から頂いた物品は、コロナ禍の影響で失業や休業、短時間勤務など多くの生活困窮世帯に配布しています。多くの善意をありがとうございました。引き続きご協力をお願いします。

2022年度(令和4年4月1日~10月31日現在) 524点



正清会 ライフサポート久田



からし種の会 アトリエ種子

- 1 からし種の会アトリエ種子 代表 棚原信子
- 2 葦の会 オリブ山病院 代表 田頭真一
- 3 就労支援サービス(株) 代表 大島昭康
就労支援ワークイット
- 4 正清会(久田病院) 代表 与儀英明
- 5 沖縄中央福祉会彩風の杜なは 代表 安里富士子
- 6 就労支援センターふくぎ 代表 國吉正人